

日本NIE学会会報

第 60 号

〔発行所〕日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 横浜国立大学教育人間科学部 重松克也研究室内

E-mail jssnie2005@gmail.com

第 22 回愛知大会の開催に向けて（2次案内）

大会実行委員長 白井克尚（愛知東邦大学）

愛知県に住む外国人の数は、東京都に次いで全国第2位となり、多文化共生社会の形成が喫緊の課題となっています。そのような状況において NIE の果たす役割は少なくありません。しかし、昨今、紙の新聞離れが進み、新聞やテレビなどのオールドメディアへの信頼度が低下しています。選挙戦では、SNS 上の情報ばかりが重視され、「フェイクニュース」「エコーチェンバー」「フィルターバブル」といった状況のもと、市民は正確なニュースを判断しにくくなっています。そのために根拠のない偏見を生み、社会の分断が懸念されています。これは、多様な価値観を認めあう民主主義を危うくするものという指摘もあります。多文化共生社会の形成が求められる状況、ジャーナリズムの危機とも言える時代において、確かなニュースを届け発信できる人々を育てるために、私たちが NIE を通じて取り組むべきことは何でしょうか。

そこで、今回の愛知大会では、「確かなニュースをどう届けるか、どう発信するか～多文化共生社会の NIE～」をテーマとして掲げ、生きた日本語教材でもある「新聞」をさらに活かすこれからの NIE のあり方を、ご参加の皆様と議論する機会にしたいと思います。

前回の愛知大会は、2013 年に、第 10 回大会として「真価が問われるデジタル時代の NIE – 価値ある情報を教育に –」をテーマとして開催されました。そこでは、デジタル時代の NIE として価値ある情報をどのように教育に位置付けていくかという問題提起が行われました。今回も、今後の多文化共生社会を意識しつつ、新しい NIE のあり方を展望する大会にしたいと考えています。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

I 大会要項

1. 主 催 日本 NIE 学会
2. 期 日 2025 年 9 月 27 日（土）
3. 場 所 愛知東邦大学 対面開催
4. 大会 HP <https://ipc.or.jp/nie22/>
5. 後 援 愛知県 NIE 推進協議会・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・愛知県私学協会・公益財団 理想教育財団
6. 開催助成 愛知東邦大学
7. 大会テーマ 確かなニュースをどう届けるか、どう発信するか～多文化共生社会の NIE～

8. 日 程

時間	8:30 ～ 9:00	9:00～10:20	10:30～11:30	11:30 ～ 12:30	12:40～14:10	14:20～16:20	16:30 ～ 17:20	17:30 ～ 19:30
内 容	受 付	自由研究発表 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ Ⅹ・Ⅺ (80分)	- 三菱みらい育成財団助成「フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する産・学・高校生共同プログラム」に参加する高校生たちによるポスターセッション - 一般社団法人インターネットメディア協会によるコメント (60分)	昼 食 ・理事会 (60分)	- 企画委員会企画 NIE 生徒研究発表大会 (90分) - 外国にルーツのある子どものためのNIE企画 (60分)	実行委員会企画大会シンポジウム(ワークショップ) (120分)	総 会 (50分)	情 報 交 換 会 (120分)
		愛知県の中高生による NIE を活用した学習成果発表 (展示)						
			・Classroom Adventure の開発した「レイのブログ」体験コーナー					

* 17時30分より19時30分まで情報交換会を開催します(帰りは、駅までの送迎バスをご用意します)。情報交換・交流の場として奮ってご参加ください。

Ⅱ 大会概要

1. 自由研究発表

9月27日(土) 9:00～10:20

学会員の皆様の研究発表・交流の時間です。新聞社による NIE の取り組みの発表、研究交流、『学会誌』に研究報告・実践報告での掲載をめざす成果発表などが行われます。

- (1) 発表方法：口頭発表：パソコンを使われる方はご持参ください (HDMI 接続)
- (2) 発表時間：発表時間 15 分、質疑応答 10 分(変更になりました)
- (3) 発表資格：日本 NIE 学会の会員（共同発表の場合も、発表者全員が会員である必要があります。非会員の方には、入会手続きのご案内をお送りいたします。）

分科会Ⅰ NIE によるリテラシー教育の展開 (会場：A101 教室)

司会 伊東広路 (読売新聞大阪本社)、柳澤伸司 (立命館大学)

	題 目	発表者 (所属)
1	新聞社と連携し、ゲームを取り入れたメディアリテラシーを育む取り組み	金原洋輔 (みよし市立南中学校)
2	陰謀論時代のメディアリテラシーを考える	坂本旬 (法政大学)
3	歴史ニュース番組作りを通じた歴史学習におけるニュースリテラシーの育成 ～小学校第6学年社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」を例に～	松本卓也 (名古屋市立八社小学校)

分科会Ⅱ NIEによる防災教育の展開（会場：A102教室）

司会 白銀泰（朝日新聞社 NIE 事務局長）、成田健之介（日本学び未来ネットワーク）

	題 目	発表者（所属）
1	佐賀の教頭と岩手日報社が紡ぐ「最後だとわかっていたら 教育プログラム」の実践ー3.11 新聞広告等を活用した道徳・震災復興・防災教育の展開ー	○光武正夫（多久市立東原庫舎中央校）・磯崎真澄（岩手日報社）・柏山 弦（岩手日報社）
2	「生存」の仕組みに視点を置いた災害復興のあり方を考える授業構想ー「糸魚川大火」に関する新聞史料の分析を例にー	佐藤優一（兵庫教育大学連合大学院・糸魚川市立糸魚川中学校）
3	ノンフィクションでの記事活用ージャーナリストの歴史探究ー	城島徹（元毎日新聞記者）

分科会Ⅲ 初等・中等教育における NIE の多様な展開（会場：A205教室）

司会 臼井淑子（神奈川県 NIE 推進協議会）、畝岡睦実（岡山県立岡山南高等学校）

	題 目	発表者（所属）
1	新聞からはじまる主体的な学び	○田代弘子（甲南学園甲南小学校）、浅川功治（甲南学園甲南小学校）
2	NIE を学校文化として定着させるための取組 - 府中北小学校の場合 -	宮里洋司（広島県府中町立府中北小学校）
3	選択・活用した情報をもとに、自分の主張に活かす社会科授業	種藤博（東京都中央区立晴海西中学校）

分科会Ⅳ 教員研修における NIE の展開（会場：A207教室）

司会 橋本祥夫（京都文教大学）、古家正暢（帝京大学）

	題 目	発表者（所属）
1	NIE 実践者が抱える困難と克服 - 若手教師と中堅教師の省察 -	○篠原嶺（奈良教育大学附属中学校）野中瑞紀（奈良市立一条高等学校・附属中学校）
2	7.20 参議院選挙の「敗北者」は… 新聞（NIE）と社会科教師 - 「立憲民主主義」を次世代へと繋ぐには -	古家正暢（帝京大学）
3	行政委託補助事業の NIE 実践報告	○松井圭三（中国短期大学総合生活学科）

分科会Ⅴ 多様性と NIE（会場：B101教室）

司会 関口修司（日本新聞協会 NIE コーディネーター）、平子晶規（愛知淑徳大学）

	題 目	発表者（所属）
1	外国にルーツをもつ児童が自らの言葉で社会を伝える NIE 実践	○岡田陸、青山智哉、大内結子、袖野薫（愛知教育大学教職大学院）
2	ネパールとの NIE を通したシティズンシップ育成の成果と今後の課題 ～守口市立藤田小学校の実践から～	○中善則（花園大学）今宮信吾（大阪大谷大）岡本健（守口市立藤田小学校）西村まさみ（前 京丹後市口大野地区公民館）
3	市教委と協働した夜間中学校での NIE	○山下雅道（姫路市立あかつき中学校）・久保田智子（姫路市教育委員会教育長）

分科会Ⅵ NIEの教材論（会場：B103教室）

司会 尾高泉（元新聞協会事務局次長・元新聞博物館館長）、栗原幸正（高崎健康福祉大学）

	題 目	発表者（所属）
1	紙の新聞は教材であり続けることができるか——実践者の立場から	渡邊弘（鹿児島大学）
2	教科書記述の前提を補う NIE に関する研究	金子幹夫（明治大学）
3	Z 世代にどのように「新聞」を発見させていくか	稲井達也（大正大学）

分科会Ⅶ NIEの多様な展開「はがき新聞」「新聞切り抜き学習」（会場：B105教室）

司会 平石隆敏（京都教育大学）、小田泰司（福岡教育大学）

	題 目	発表者（所属）
1	「はがき新聞」を活用した多文化共生へのアプローチ —「やさしい日本語」による新聞記事の書き換えを通して—	福田浩三（兵庫県立伊川谷高等学校）
2	新聞切り抜き学習を通じた自己理解と多様性理解の深化—小学校6年生のキャリア学習の視点から—	氏家拓也（武豊町立緑丘小学校）
3	外国人留学生の「はがき新聞」作成に関する自己評価の変化	辻本桜子（大阪教育大学）

分科会Ⅷ NIEによるエージェンシー育成（会場：B201教室）

司会 森田英嗣（大阪教育大学）、野寄雄太（北海道教育大学教育学部函館校）

	題 目	発表者（所属）
1	エージェンシー育成につながる NIE 教育の考察	宮崎三喜男（専修大学）
2	小学校第5学年「我が国の情報と産業との関わり」において育成すべき非認知能力についての考察	森田幸一郎（名古屋市立大学大学院博士後期課程 / みよし市立三好丘小学校 / 星城大学非常勤講師）
3	自分の経験・感情に基づいて構築される事実、気付く力を育む NIE	野寄雄太（北海道教育大学教育学部函館校）

分科会Ⅸ NIEによる平和学習・地域学習の展開（会場：B202教室）

司会 角田将士（立命館大学）、鶴田輝樹（広島大学附属中・高等学校）

	題 目	発表者（所属）
1	NIE 活動を掛け合わせた平和学習に関する考察—ユネスコスクールとしての活動を中心として—	鶴田輝樹（広島大学附属中・高等学校）
2	地域理解を育む NIE 実践～地元—他地域を比較する新聞づくりを通して	為重慎一（広島国際学院中学校・高等学校）
3	教育実践史研究と新聞記事の活用可能性 -1970 年代公害教育実践の分析を通して -	山口一典（学習院大学大学院）

分科会Ⅹ 高等教育における NIE の多様な展開（会場：B 2 0 3 教室）

司会 朝倉淳（広島大学）、原宏史（東海学園大学）

	題 目	発表者（所属）
1	新聞社説を活用したレポート作成の実践報告	兼間昌智（札幌大学）
2	「看護専門学校」における授業への仕掛けと工夫～新聞教材を活用して主体的・対話的で深い学び～	中田正浩（四条畷・阪奈中央看護専門学校）
3	キャリア教育における新聞活用－人物記事を中心に－	徳永加代（帝塚山大学）

分科会Ⅺ NIE による多文化理解学習の展開（会場：A 2 0 2 教室・オンライン）

司会 西尾圭一郎（大阪公立大学）、鴛原進（愛媛大学）

	題 目	発表者（所属）
1	日本の新聞と AI を活用した文脈的学習メディアとしての応用：実習候補者のリテラシー向上	ナスティオン（インドネシア国立スラバヤ大学）
2	日本の新聞の活用を通して、日本社会における社会的リテラシーと職業スキルを向上させる	パラストゥティ（インドネシア国立スラバヤ大学）・オンライン
3	新聞記事を活用した社会科学習 青い目の人形と戦争（小学 6 年）	行田臣（豊川市立御津南部小学校）・オンライン

2. 愛知県の中高校生による NIE を活用した学習成果展示（実行委員会企画）**

9月 27 日（土）9：00～16：20 会場：A 2 0 1（1）・A 2 0 1（2）教室

愛知県の中高校生による NIE を活用した学習成果を展示する予定です。金城学院中学生が作成した「15 歳の語り継ぐ戦争－金城学院中学生の壁新聞」の展示、東邦高校生徒会有志が名古屋市や同市議会に条例制定を要望するなどの活動が続けてきたことに関する新聞報道など、NIE を通じて中高生が新聞に触れる機会となった学習成果について展示します。

3. Classroom Adventure 開発「レイのブログ」体験コーナー（実行委員会企画）**

9月 27 日（土）10：30～14：10 会場：B 2 0 1 教室

シンポジストとしても登壇する今井善太郎さんが大学生のうちに共同開発した「レイのブログ」の体験コーナーを設けます。「レイのブログ」とは、インターネット上の情報に対しどう向き合っていくかを謎解きゲームを通して学べるプログラムです。ゲームとレッスンの 2 つのパートを通してメディアリテラシーへの理解を深めることができます。参加者は、スマートフォンなどのデバイスを使って「レイのブログ」にアクセスします。プログラムはアニメーションを使った物語仕立てになっていて、中学時代にタイムスリップするところから物語が始まります。レイと名乗る人物からの挑戦状を受けとり、レイが残したブログからレイが誰なのか、謎を解いていくというのが大まかなストーリーです。レイが残したブログには沢山の誤情報が含まれていて、誤情報を見破るごとに謎に一步近づいていくような仕掛けになっています。

4. 高校生によるポスター発表「フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する産・学・高校生共同プログラム」および一般社団法人 インターネットメディア協会（JIMA）によるコメント（企画委員会企画）**

9月 27 日（土）10：30～11：30 会場：S 棟 1 階 新スチューデントコモンズ

企画委員会では 2023 年度より三菱みらい育成財団の助成を受けて標記のプログラムに取り組んでき

ました。このプログラムは、フェイクニュース時代に対抗できるメディア情報リテラシーを育成するための教材と学習方法を、高校生、メディア関係者、大学研究者、学校教員等が協同して創り、実践し改善するプロジェクトを土台にした学びの方法です。学会員の皆様はもちろん、一般社団法人 インターネットメディア協会（JIMA）の皆様にもご協力をいただき実施してきました。当日は、高校生が開発した授業や教材の発表と JIMA のメンバーからのコメント等をお聞きいただき、フェイクニュース時代に対抗できる教材や学習方法について考える機会とします。

5. 理事会

9月27日（土）11：30～12：30 会場：B101

6. 自ら問いを立て行動する高校生 – NIE 生徒研究発表大会 –（企画委員会企画）**

9月27日（土）12：40～14：10 会場：B101

この研究発表会は、「高校生の探究的な学びをサポートし、主体的に学ぶ力やメディア・リテラシーを備えた市民の育成と探究的な学びの拡充と深化とに貢献」することを目的に開催するものです。「新聞」「新聞報道」「メディア情報リテラシー（新聞に関わるもの）」に関する調査・報告・研究などを全国の高校から募集します。大会テーマの「確かな情報をどう届けるか、どう受け取るか」の具体的な姿を見る機会として位置付けています。

7. 外国にルーツのある子どものための NIE 企画（実行委員会企画）**

9月27日（土）12：40～14：10 会場：LCホール（L棟4階）

中日新聞社 NIE 事務局が、愛知県内3市で外国にルーツのある子どもたちを対象に行っている活動「外国にルーツのある子どものためのNIE企画」について発表します。3市は、学校での取り出し授業、初期日本語教室、学童保育と異なった環境で、中日新聞独自の「新聞切り抜き作品」作りを中心に活動しています。日本語をあまり知らない子どもたちと新聞は、距離が遠いように思われがちですが、子どもたちは大変楽しそうに活動しています。新聞にしかない良さがあるからです。また、学童保育では、教員を目指す学生や現役の小中学校教員も参加しており、NIE が異世代交流の場になっています。会場に子どもたちの作品を展示します。ぜひ、ご覧ください。

8. 大会シンポジウム：「確かな情報をどう届けるか、どう発信するか」（ワークショップ）

（実行委員会企画）**

9月27日（土）14：20～16：20 会場：B101+中継教室

人々の SNS への依存やポピュリズムへの傾斜が懸念される昨今、ニュースおよびニュースにかかわるコミュニケーションを媒介するメディアの役割が改めて問われています。こうした中で「新聞」が担う役割はどのような役割となるのでしょうか。本シンポジウムでは、個人が簡単に「情報」を発信できるいま、「確かな情報」とは何か？ それをどのように届けるとよいか？ 参加者自身が、シンポジストの話題をもとに対話の中で考えを深めます。「新聞」の役割を確認し、民主主義社会を強化・発展させるため、今後さらに多様化する社会の中で「ニュースリテラシー」を育成する学校教育の将来を展望しましょう。

コーディネーター：土屋 武志（愛知教育大学名誉教授、愛知東邦大学客員教授）

西尾 圭一郎（大阪公立大学准教授）

シンポジスト：石岡 史子（NPO 法人ホロコースト教育資料センター代表）

今井 善太郎（「レイのブログ」開発者）

大河 仁美（愛知県立豊橋西高等学校教諭）

長澤 江美（スマートニュース メディア研究所研究員）
白田 信行（中日新聞社相談役）
コメンテーター：野津 孝明（島根県立平田高等学校校長）

9. 総会

9月27日（土）16：30～17：20 会場：B101

10. 情報交換会

9月27日（土）17：30～19：30 会場：S棟 1階 食堂

Ⅲ 大会参加申込・大会会場での無線 LAN（eduroam）の接続について

大会参加申込

大会参加申込は、以下のチケット販売サイト Peatix よりお申し込みください。
事前の大会参加費でお支払いいただけるのは、**9月13日（土）**までとなります。
9月14日以降は、「直前・当日申込」の大会参加費となりますのでご注意ください。

【大会参加申込み：Peatix の URL】
<https://peatix.com/event/4368735/view>



<付記> 参加申込みと同時に、大会参加費の支払いが行われます。なお、
Peatix の利用にはアカウント登録〔無料〕が必要です。

※ 昼食について

【QRコード】

会場校周辺にコンビニ等がありますが、少し離れている為、弁当を予約いただくか、ご持参ください。
弁当の予約をご希望の方は、手配の都合上、Peatix にて**9月13日（土）**までにチケットの購入をお願いいたします。弁当の値段に Peatix 申し込み手数料1件あたり150円を加えた値段（1,000円）として設定させていただいています。飲み物は各自ご持参ください。キャンパス内には自販機もあります。

（2）大会会場での無線 LAN(eduroam) への接続について

- ※ eduroam のアカウントをお持ちであれば、大会会場での手続きなしで無線 LAN に接続可能です。
eduroam のアカウント取得に関しては、所属機関の担当者にお問い合わせください。念のため、事前に所属機関にて eduroam に接続できることを確認してください。
- ※ eduroam アカウントを持っていない方には、開催期間中のみ学内で使用可能な臨時のアカウントを発行することができますので、大会1週間前、9月20日（土）までに以下の Google フォームにてお申し出ください。

【eduroam 臨時アカウント発行希望】
https://docs.google.com/forms/d/16HbuE3iBiglc3_3rmMRfeRfhVKIIMDg4Vr3X1AaLU8/edit



【QRコード】

V 大会参加費の支払いについて

大会参加費は次のようになります。

* 正会員	事前申込み	3,000円	※9月13日まで
	直前・当日申込み	3,500円	※9月14日以降（～27日まで）
* 院生・学生会員	事前申込み	1,000円	※9月13日まで
	直前・当日申込み	1,500円	※9月14日以降（～27日まで）
.....			
* 情報交換会参加費	正会員	6,000円	
	院生・学生会員	3,000円	

※ 情報交換会にご参加いただける方は、Peatix で参加申込みをされる際、「大会参加費」に加えて「情報交換会参加費」チケットをご購入ください。

※ なお、情報交換会参加費のチケットは、大会参加費とは別に、Peatix より大会当日まで購入することができます。

VI 交通案内・宿泊について

- ・ 交通案内については、愛知東邦大学ホームページの交通アクセス（下記）をご参照ください。自家用車の入構はできません。公共交通機関をご利用ください。
- ・ 宿泊される場合は、各自で手配頂きますよう、よろしくお願いいたします。

【愛知東邦大学交通アクセス】

<https://www.aichi-toho.ac.jp/information/access>

VII その他

事前受付をされた方の要旨集録集は確保しますが、当日受付の場合、要旨集録集が足りなくなり、お渡しができなくなる場合があります。要旨集録集を希望される場合は、事前申込をお願いいたします。

今回は、学会の社会貢献として、非会員の方も会員と同じ手続きで参加できます。ただし非会員の方で自由研究発表される場合は、必ず入会手続きをお願いします。

【日本 NIE 学会 HP・入会はこちら】

<https://jssnie.jp/>



【QR コード】



【QR コード】

以上

日本N I E学会規約

第1章 総 則

- 第1条 本学会は日本N I E学会という。
- 第2条 本学会の本部は当面の間「横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 横浜国立大学教育人間科学部 重松克也研究室」内に置く。本部は「日本NIE 学会運営委員会内規」で定めた業務を行う。
- 但しその他の地に支部を置くことができる。

第2章 目的および事業

- 第3条 本学会は新聞を教育に活用することに関する研究，調査，教育実践ならびにその会員相互の協力を促進し，我が国の教育の発展及び文化の向上に貢献することを目的とする。
- 第4条 本学会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. N I Eの学術的研究調査
 2. 幼・小・中・高・大学・社会人を含めたN I E実践の推進と開発
 3. N I E教育の普及・助成
 4. 機関誌その他の図書の刊行
 5. その他

第3章 会 員

- 第5条 本学会の会員は次の3種とする。
1. 正会員
 2. 法人会員
 3. 顧問
- 但し準会員をおくことができる。
- 第6条 正会員は本会の目的と規約に賛同し，理事会が承認した者とする。
- 第7条 準会員はN I Eの研究調査に関心を持

つ学生で所定の手続きを経て，理事会が承認した者とする。

- 第8条 正会員および準会員は所定の会費を納めなければならない。
- 第9条 法人会員は本学会の趣旨に賛成し，本学会と協同して会の目的を実現しようとする者で，理事会で承認した者とする。
- 第10条 顧問は特に本学会に功労のあった者で，理事会で承認した者とする。顧問には年会費は免除され，会報・学会誌は無償で送付される。

第4章 役 員

- 第11条 本学会は次の役員を置く。
1. 会長 1名
 2. 副会長 1名
 3. 理事 若干名
 4. 監事 2名
- 第12条 会長および副会長は理事会において互選し，総会の承認をうる。その任期は総会後の4月1日より2年間とし，再任をさまたげない。
- 第13条 理事および監事は正会員の中から総会において選任する。
- その任期は総会後の4月1日より2年間とし，再任をさまたげない。
- 第14条 補欠により選任した役員の任期は前2条の規定にかかわらず前任者の任期の残存期間とする。
- 第15条 会長は本学会を代表する。
- 会長が故障のある場合には，副会長に，その職務を代行させる。
- 第16条 理事会は会長および副会長，理事によって構成される。
- 理事会は総会の議決事項以外の会務を決定

する。

理事会は常任理事若干名を互選し、これに各委員会の執行を委任することができる。

第17条 理事会の議決は総員の過半数の同意を必要とする。

第18条 監事は、会計および会務執行の状況を監査する。

監事は理事会に出席して意見を述べることができる。

第19条 会長は、理事会の承認を得て顧問を置くことができる。

第5章 総 会

第20条 総会は、本学会の最高議決機関であって、毎年1回定期に開くこととし、会長はこれを招集する。

理事会が必要と認めたときは会長は何時でも臨時総会を招集することができる。

正会員の5分の1以上の者が会議の目的たる事項を示して請求したときは、会長は臨時総会を招集しなければならない。

第21条 総会の議決は、別段の定めがある場合を除き、出席した正会員の過半数によって決める。

第6章 委 員 会

第22条 本学会の活動を促進するために委員会をおくことができる。

各委員会の規則は別に定める。

第7章 資産および会計

第23条 本学会の資産は会費、寄附金およびその他の諸収入より成る。

第24条 本学会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第25条 毎年度の予算、決算および財産目録は総会の承認を受けることを要する。

第8章 規約の変更・実施

および解散

第26条 本規約は、総会において、出席した正会員の3分の2以上の同意をえなければ、これを改正することができない。

第27条 本学会は総会員の3分の2以上の同意がなければ解散することができない。

第28条 本規約を実施するために細則を設けることができる。

附記

2005.3.20	制定・施行
2009.11.21	改正
2010.4.29	第2条事務局記載事項変更
2012.4.1	改正
2014.3.16	改正
2016.11.26	改正